

此長屋に納家がない、それでア、やつて、一軒空いて居ると、お互ひに、邪魔になるものは、皆入れ
て置く、これから洗濯物でも俄雨の時は、竿に通したなりで、入れて乾かせる、あの空家を物入れに
使ふつもりや、どうや、俺の考へは、ゑらいもんやろ」「やア成程流石は源さん、賢いなア、する
事が……さうすると、これから借りに来た奴があつたら、誰でもあんな事を言ふのやなア」「さうや
よつて、これから若しも、あの空家を借りに来たたら、皆な俺んどこへ寄越し、さうすると、俺んこ
で、うまい事怪談話しをして、歸してやるさかい。」「よし、それでは萬事頼むで、オイ源さん、こん
な處に、ゑらい宜い煙草入が有るで」「ア、今の奴が、あわて、忘れて去んだのや」「ヘエー ゑら
い好い煙管やで、銀やで、私銀の煙管が一つ欲しいと思ふて居たところや、これ何うや、源さん、私
いにおくれんか……何に、取りに来るもんか、源さん、又空家借りに来たたら、お前とこへお越しよつ
て、なるだけ怖い話をして、忘れ物があつたら私が貰ふよつてに」「そんな、うまい事があるものか」
それからと言ふものは、チョイ／＼借りに来る人があると、源さんが、怖い話で脅かして歸して仕
舞ひますから、誰一人この家を借手がない、借りに来ると怪談話して怖がつて歸りしなわ、チョ
／＼物を忘れて行く、それをば長家で、分けて居ると、在る日の事「オイ 隣りに貸家札が張つて
あるが、あの家の家主は何處や」「ハイ 家主は遠方やが」「何んや、遠いのか、この邊に、もりやは
ないのか」「コレ わからん事を言ひなかつたなア、もりやてなんや」「わからんのか、家守を、さか

さまに言ふたら、もりやぢやないか」「コレそんなものを、さかさまにしなさんな、ヤヤコシイ、家
守と言ふてなはいが、萬事私しが引請て居る、お前さん借るのかへ」「オイ 借ろと思ふて来たんや、
お前が萬事引請て居るなら、恰度幸ひや、あの家は敷はなんぼや」「ハイ マアお這入り あの家は
敷金はいらんのや」「ナニ 敷金がいらん、そら貧乏人には、もつてこいや、それで、チンヤなんぼ
や」「マタ 解らんことを言ふた、チンヤて、何んのことや」「家賃を、さかさまに言ふと、チンヤ
やないか」「そう チョイ／＼逆さまにしたら、ヤ、コシイ、家賃は十八圓ぢや……」「ナニ 家賃十
八圓、コラ、あんな薄汚ない、小さい家で、家賃の十八圓も取る コラ……家主にそう言へ、そんな
事を吐かしたら眉毛がぬけるぞ、向ふすねを、たゞき折ると、生意氣な奴や」「コレ……お前さん恐
りなさるな、話をあんじよう聞きなされ、毎月家主へ十八圓家賃を拂ふと思ふよつてに腹が立つ、そ
うやない、あの家に住むと、毎月家主から十八圓づゝ呉れるのや」「ソナラ何か、あの家に住むと、
家主から毎月十八圓呉れるのか」「そうや」「イヤ、結構、俺は隣りの家、氣にいつた、借るよつてに
頼むで」「コレ チョット待ちなされ、そりや借るのは宜いが、あの家、十日と言ひたいが、三日と
は住んで居られん」「オイ 家主から毎月十八圓も呉れるのに、なんで三日と住んで居られんのや」
「サア そこや、住んで居られんと言ふのには、仔細が有る」「ソラ承知や、家主から十八圓も呉れ
よと言ふには、譯があるに違ひない、其譯聞かう」「マア 掛けなされ、外の事やないが、隣りの家ナ